Ⅳ　教育及び研究

1　学部・大学院の概要（3つの方針）

【 学　部 】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

（汎用的・実践的技能）

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形

式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

（1）学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。

（2）人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系（英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域）、地域文化創造系（地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域）、文化総合系（言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ）の3つの系から成る学部専門科目を設置する。

（3）専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。

（4）この他、中学校・高等学校（国語、英語）の教職課程を設置する。

（履修方法・順序）

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

（教育方法）

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕

2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学

ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜
　小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部［文化総合系（夜間主コース）］が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜（県内）
　学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜（A日程・B日程）
　社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜
　小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

　看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）
1．専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力を有している。

（汎用的・実践的技能）

2. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力を有している。
3. 地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力を有している。

（態度・志向性）

4. 看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力を有している。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

5. 看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力を有している。
6. 国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力を有している。
7. 看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
(4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。
(2) 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
(3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指

した科目を置く。

(4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

(1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。

(2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。

(3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。

(4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

(1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（小論文、面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内）

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」 を置いて

いる。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

（汎用的・実践的技能）

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。
(2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
(3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。

(5)専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(6)専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
(7)この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)
(1)基礎科目は、1年次に履修する。
(2)専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
(3)専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
(4)専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
(5)「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)
(1)専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
(2)「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)
各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。
したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【 大 学 院 】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人-家族-地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダシップとマネージメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師（以下 CNS）コース、研究コース、及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目（大学院共通科目・専攻共通科目）」と「領域専門科目」の科目群をおく。
2. CNS コースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の6領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む専門科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭（看護）専修免許に必要な科目をおく。

（順序性）

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するために CNS コース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目を学修するように配置し、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を獲得する科目を配置する。

（教育方法）

7. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNS コース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
9. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第 14 条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

（評価方法）

10. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
11. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程の入学試験は、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する基礎的能力と看護に対する専門職業人としての能力（看護に関する志向性を含む）について評価します。

専門科目：基礎的理解力、科学的思考力、看護の専門的能力（専門的知識、基礎的実践能力）及び社会や健康に関わる課題に対する問題意識について評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力について評価します。実践リーダーコースにおいては面接時に提出された研究計画書を活用します。

○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現や QOL の向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、がん看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学、地域看護学、在宅看護学、学校保健学、共創看護学、看護病態生理学、看護経営管理学等の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

（順序性）

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論

文作成指導にあたる。

（評価方法）

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等（最終試験）を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と想像力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学試験は、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価します。

小論文：看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力（看護の志向性を含む）と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験：看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価します。

○看護学研究科　共同災害看護学専攻　博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士（看護学）とし、（DNGL：Disaster Nursing Global Leader）を付記した、学位を授与します。

○人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。

○災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

○グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
○学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

○カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「看護学の基盤に関する科目群」「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学に関する科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「災害看護学演習」「災害看護学実習」および「災害看護学に関する研究支援科目群」の6つの科目群によって構成する。
○学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「災害看護学演習」および「災害看護学実習」の科目群に「インディペンデントスタディ」を科目として置く。
○構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
○学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を行う。
○構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

○災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
○災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3（2021）年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

1．共通ディプロマ・ポリシー

1）専攻領域における研究遂行にとって必要とされる学術的知識を有している。
2）専攻領域以外の領域にわたる幅広く深い学術的学識を有している。
3）地域社会の特性を踏まえて追究すべき研究課題を発見することができる。
4）地域社会をシステムとして捉えた研究を実践することができる。

5）設定した研究課題を科学的視点で捉え、結論を導出することができる。
6）研究を通じて得られた知見や技術を口頭または論文の形で共有化することができる。
7）対象とする研究課題を自律的に遂行することができる。
8）学問の体系化への貢献とあわせて実践的研究を志向し、得られた成果を地域社会に還元することができる。
9）研究倫理について的確に理解・遵守し学術研究活動を行うことができる。

2. 領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞
1）生活・栄養の分野における専門的な知識を人間の生活に関して焦点化することができる。
2）地域における生活・栄養分野の課題を複雑系科学の視点で捉えるとともに、課題解決のための具体的方策を検証することができる。

（2）社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞
1）社会福祉の分野における専門的な知識と技術を人間の生活に関して焦点化することができる。
2）地域における福祉分野の課題を科学的視点で捉えるとともに、ミクロ・メゾあるいはマクロの観点から課題解決のための具体的な方策を検証することができる。

（3）文化学領域　＜修士（学術）＞
1）文化研究における専門的な知識と技術を、人間の生活に関して焦点化することができる。
2）設定した研究課題を人文科学的方法論または社会科学的方法論に則り検証することができる。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）
1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目（大学院共通科目・人間生活学研究科科目）」「栄養・生活学領域科目」「社会福祉学領域科目」「文化学領域科目」「英語・領域教育コース科目」「栄養・領域教育コース科目」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。
2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎」「地域・国際福祉」「介護・高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。
5. 栄養・領域教育コース科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
6. 英語・領域教育コース科目に「英語・国際文化研究」の科目群をおく。

（順序性）
7. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」（必修）と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択必修）を履修させる。

（教育方法）

8. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
9. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価方法）

10. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
11. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3. 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

（2）社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3. 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指

導会を実施する。

(3)文化学領域　＜修士(学術)＞

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学選抜の出願区分として「一般」「社会人」及び「外国人留学生」をおく。選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般(入試)

本区分は、大学を卒業した人及び当該年度に大学を卒業見込みの人などを受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

筆記試験:小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験:「研究計画書」に基づく発表と質疑応答をおこない、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。

地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために生かそうと考えているか、などである。
研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

・社会人（入試）
本区分は、大学を卒業した人などで、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体での在職経験を有するまたは社会活動経験のある人で、かつ、受験者や受験者の研究テーマに関して理解している個人が推薦する人を受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。
プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。
面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。
なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人（入試）
本区分は、大学を卒業した人などで、日本国籍及び日本における永住資格を有しない人で、かつ「日本語能力試験（N2 又は2級）」に合格した人を出願対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。
プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。
面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

1）研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し，自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
2）既存の知識や技術の応用に新たな視点を加え，知の創造に繋げることができる。
3）人間生活に変革をもたらす政策開発ならびに意思決定への参画に繋がる研究を行うことができる。
4）自己の研究を自立して展開していく態度と能力を有している。
5）研究倫理に則り研究を完遂できる態度と能力を有している。

2. 領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜博士（生活科学）＞
1）栄養・生活の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
2）栄養・生活の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の栄養・生活の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

（2）社会福祉学領域　＜博士（社会福祉学）＞

1）社会福祉の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。

2）社会福祉の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の社会福祉の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

（3）文化学領域　＜博士（学術）＞

1）文化の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。

2）文化の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の文化の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1．共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1．カリキュラムを構成する主要科目群として、「共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。

2．共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。

3．専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。

4．専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。

5．研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

（評価方法）

6．博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。

7．博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。

8．学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1)栄養・生活学領域　＜博士(生活科学)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月におこない、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各１名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(2)社会福祉学領域　＜博士(社会福祉学)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(3) 文化学領域　＜博士（学術）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識、基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」をおこない、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験：専攻する領域における外国語（英語）の読解力、設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価する。

領域専門：社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、これまで行ってきた研究の独創性、資料の完成度、発表の態度、提出され

た研究計画書との整合性及び、質疑応答について評価する。

口述試験：研究計画についての発表と質疑応答をおこない、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

２ 受講者の状況

【 学 部 】

（1）共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	26
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	136
英語コミュニケーションⅠC	290	情報リテラシー	126
英語コミュニケーションⅠD	281	コンピュータリテラシー	152
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	31	ビジネスリテラシー	34
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	22	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	37		

○看護学部 看護学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	36
英語コミュニケーションⅠC	152	情報リテラシー	2
英語コミュニケーションⅠD	148	コンピュータリテラシー	52
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	3	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	2		

○社会福祉学部 社会福祉学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	3
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	0
英語コミュニケーションⅠC	143	情報リテラシー	0
英語コミュニケーションⅠD	148	コンピュータリテラシー	73
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	6	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	6		

○健康栄養学部 健康栄養学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	26
英語コミュニケーションⅠC	77	情報リテラシー	22
英語コミュニケーションⅠD	76	コンピュータリテラシー	43
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	2	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	1		

教養基礎科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
科学と人間	56	法学	106
基礎化学	31	政治学	25
基礎生物学	152	経済学	108
物理と自然法則	7	倫理学	77
地球の科学	7	哲学	256
数学入門	4	文学	43
基礎統計学	80	基礎ジェンダー学	209
社会調査基礎論	16	心理学	176
日本国憲法	193		

課題別教養科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
生活と社会福祉	112	労働と人権	42
現代生活論	100	地域とグローバリゼーション	未開講
環境と健康と安全	51	家族関係論	117
自然災害と防災の科学	108	地域メディア論	未開講
平和論	未開講	異文化理解海外フィールドワーク	13
現代人権論	94	人権教育論	26
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	264	健康とヘルスプロモーション	6
健康スポーツ科学Ⅱ	249	栄養と健康	45
対人関係とメンタルヘルス	164		

域学共生科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
地域学概論	342	専門職連携論	48
土佐の歴史と文化	29	チーム形成論	93
土佐の経済とまちづくり	83	地域学実習Ⅰ	341
土佐の自然と暮らし	156	地域学実習Ⅱ	242
土佐の食と健康	154	域学共生実習	14

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)　　(単位:人)

授業科目				受講者数
文化学部共通科目	リテラシー科目		基礎演習	162
			中国語基礎Ⅰ	98
			中国語基礎Ⅱ	97
			ドイツ語基礎Ⅰ	20
			ドイツ語基礎Ⅱ	22
			フランス語基礎Ⅰ	26
			フランス語基礎Ⅱ	28
			日本語Ⅰ	2
			日本語Ⅱ	2
			情報処理演習	181
			文献調査論	100
			基礎読書法	125
	エッセンシャル科目		文化哲学	210
			文化人類学	209
			文化と権利	145
			文化と裁判	264
			公共哲学	98
			民俗学	115
			文化と経済	90
			日本文学概論	154
			言語学概論	184
			日本語学概論	170
			グローバルスタディー(～2018)	7
			グローバル平和論	177
			社会調査論	68
			域学共生フィールドワーク	6
			文化学課題研究ゼミナールⅠ	134
			文化学課題研究ゼミナールⅡ	147
			文化学課題研究ゼミナールⅢ	163
			文化学課題研究ゼミナールⅣ	175
	キャリア形成科目		キャリアデザイン論	129
			キャリア形成論	121
			企業実習	46
文化学部専門科目	言語文化系	英語学領域	英語学概論	66
			比較言語研究	36
			対照言語学	22
			言語教育実践論Ⅰ	22
			言語教育実践論Ⅱ	8
			英語文法論	62
			英語ライティングⅠ	15
			英語ライティングⅡ	9
			英語音声学	26
			英語スピーキングⅠ	15
			英語スピーキングⅡ	9
			英語学専門演習Ⅰ	33
			英語学専門演習Ⅱ	31
		国際文化領域	英文化・文学史	67
			英文化・文学論	54
			米文化・文学史	82
			米文化・文学論	64
			異文化理解Ⅰ	26
			異文化理解Ⅱ	30
			異文化理解Ⅲ	未開講
			国際日本学	11
			国際日本学Ⅰ(～2018)	未開講

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	言語文化系	国際文化領域	国際日本学Ⅱ	1
			比較日本学	36
			比較日本学Ⅰ	14
			比較日本学Ⅱ	1
			国際関係論	51
			国際開発論	52
			国際文化専門演習Ⅰ	32
			国際文化専門演習Ⅱ	31
		日本語学領域	日本語史	86
			日本語音声学・音韻論	89
			日本語学講読	97
			日本語文章構成論	92
			国語教育学講読Ⅰ	41
			国語教育学講読Ⅱ	17
			日本語教育学概論	29
			日本語教育教材論	32
			日本語学専門演習Ⅰ	33
			日本語学専門演習Ⅱ	24
		日本文学領域	基礎古典	100
			日本文学史(古典)	36
			日本文学史(近代)	38
			古典文学基礎講読Ⅰ	33
			古典文学基礎講読Ⅱ	27
			古典文学講読Ⅰ	60
			古典文学講読Ⅱ	33
			近代文学講読	69
			現代文学講読	71
			中国文学史	51
			中国文学講読(散文)	52
			中国文学講読(韻文)	32
			日本文学専門演習Ⅰ	32
			日本文学専門演習Ⅱ	27
			書道	22
	地域文化創造系	地域文化領域	地域文化論	90
			日本思想史	16
			日本文化論	138
			土佐地域文化資源論(歴史)(～2018)	4
			土佐地域文化資源論(方言)(～2018)	7
			地域文化資源論Ⅰ	68
			地域文化資源論Ⅱ	41
			文化政策論	78
			男女共同参画社会論	未開講
			地域防災論	78
			住文化論	98
			地域文化専門演習Ⅰ	22
			地域文化専門演習Ⅱ	19
		地域づくり領域	地域づくり論	131
			地域産業論	62
			地域分析論	84
			地方自治論	77
			NPO論	64
			地域づくりフィールドスタディⅠ	2
			地域づくりフィールドスタディ	10
			地域づくり専門演習Ⅰ	22
			地域づくり専門演習Ⅱ	21

（その2）　　（単位：人）

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	75
			観光文化論Ⅱ	60
			景観文化論	102
			観光と自然環境Ⅱ（～2018）	未開講
			観光と自然環境	134
			観光文化フィールドスタディⅠ	30
			観光文化フィールドスタディⅡ	23
			観光フィールド専門演習Ⅰ	30
			観光フィールド専門演習Ⅱ	49
		観光まちづくり領域	観光学総論	15
			観光まちづくり論Ⅰ	46
			観光まちづくり論Ⅱ	未開講
			観光産業論（～2018）	24
			観光産業論Ⅰ	35
			観光産業論Ⅱ	未開講
			観光企画論	152
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	22
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	32
			観光産業専門演習（～2018）	51
			観光企画専門演習（～2018）	1
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	23
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	未開講

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	129
			文化と統治システム	99
			社会秩序と法	112
			犯罪と法	38
			情報化社会と法文化	29
			地域社会と法文化	128
			現代法文化専門演習Ⅰ	10
			現代法文化専門演習Ⅱ	11
		生活法文化領域	生活と法文化	135
			災害と法	95
			ワーク・ライフ・バランスと法	72
			労働契約と法文化	97
			社会保障と法文化	23
			家族関係と法文化	33
			生活法文化専門演習Ⅰ	10
			生活法文化専門演習Ⅱ	11

○看護学部　看護学科

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
専門基礎科目		医学の世界	86
		人体の構造Ⅰ	95
		人体の構造Ⅱ	89
		人体の機能Ⅰ	89
		人体の機能Ⅱ	92
		人体のしくみの乱れⅠ	86
		人体のしくみの乱れⅡ	81
		心のしくみ	86
		病態と治療Ⅰ	81
		病態と治療Ⅱ	82
		診断学	86
		微生物学	83
		栄養学	87
		生化学	86
		薬理学	89
		治療学総論	81
		小児と疾患	80
		母性学	81
		保健統計学	81
		疫学	80
		健康管理論	80
		地域保健政策	81
		生命の科学と倫理	40
		医療史	4
		社会保障と看護	15
		心理学理論と心理的支援	22
		行動科学	22
		保健行動論	6
		人間工学	5
		公衆衛生学	81
		在宅医療	6
		医療と経営	17
		助産学	16
		助産診断論	16
看護基礎科目	基礎看護学	看護学総論	87
		健康と看護	86
		環境と看護	86
		人間と看護	86
		看護研究方法論	79
		看護哲学と倫理	81
	看護援助学	生活と看護	86
		生活援助論Ⅰ	87
		生活援助論Ⅱ	86
		生活援助論Ⅲ	82
		看護過程論	81
		援助関係論	86
		フィジカルアセスメントⅠ	86
		フィジカルアセスメントⅡ	86
		治療援助論Ⅰ	81

授業科目			受講者数
看護基礎科目	看護援助学	治療援助論Ⅱ	84
		症状と看護	82
		看護援助の動向と課題	4
		ふれあい看護実習	86
		看護基盤実習	83
	看護管理学	看護システム論	81
		看護サービス論	81
		看護教育論	未開講
		看護管理の動向と課題	未開講
		チーム医療実習	79
		看護管理実習	82
看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	81
		急性期看護援助論	80
		回復期看護援助論	82
		急性期看護の動向と課題	未開講
		急性期看護実習	80
	慢性期看護学	慢性期看護論	82
		慢性期看護援助論	80
		終末期看護援助論	80
		慢性期看護の動向と課題	1
		慢性期看護実習	80
	老人看護学	老人看護学総論	86
		老人の健康と看護	81
		老人看護援助論	81
		老人看護の動向と課題	未開講
	精神看護学	精神看護学総論	81
		精神の健康と看護	81
		精神看護援助論	79
		精神看護の動向と課題	未開講
		精神看護実習	79
	小児看護学	小児看護学総論	82
		小児の健康と看護	79
		小児看護援助論	79
		小児看護の動向と課題	未開講
		小児看護実習	79
	母性看護学	母性看護学総論	81
		母性看護対象論	81
		母性看護援助論	79
		母性看護の動向と課題	3
		母性看護実習	79
	助産看護学	助産看護学総論	8
		助産看護診断論	8
		助産技術論Ⅰ	8
		助産技術論Ⅱ	8
		助産看護援助論	8
		助産看護管理論	8
		助産看護の動向と課題	8
		助産看護実習Ⅰ	8
		助産看護実習Ⅱ	8

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	79
		在宅看護対象論	79
		在宅看護援助論	81
		在宅看護リエゾン論	2
		在宅看護の動向と課題	未開講
		在宅看護実習	81
	地域看護学	地域看護学総論	81
		地域の健康と看護	79
		地域看護援助論	80
		地域看護の動向と課題	2
		地域看護実習	71
	学校保健	学校保健	17
		養護概説	19
総合科目		看護研究	81
		看護と政策	81
		がん看護論	80
		総合看護実習	81
		看護実践能力開発実習	81
		バイオロジカルナーシング	4
		治療と看護	未開講
		災害と看護	44
		災害看護実践論	未開講
		看護学の動向と課題	6
		グローバル社会と看護Ⅰ	40
		グローバル社会と看護Ⅱ	未開講

授業科目		受講者数
総合科目	グローバルヘルス	未開講
	看護地域フィールドワーク	47
	異文化理解海外フィールドワーク	8
	看護セミナーⅠ	76
	看護セミナーⅡ	10
	看護セミナーⅢ	16
	看護セミナーⅣ	76
	看護セミナーⅤ	80
	臨床看護論Ⅰ（人間の自立とQOL）	3
	臨床看護論Ⅱ（家族と健康）	12
	臨床看護論Ⅲ（子どもの発達と健康）	35
	臨床看護論Ⅳ（慢性の病と生活）	6
	臨床看護論Ⅴ（健康と病気の探究）	3
	臨床看護論Ⅵ（看護と倫理的課題）	21
	母性・助産看護実践論	3
	精神看護実践論	未開講
	急性期看護実践論	4
	慢性期看護実践論	未開講
	小児看護実践論	3
	地域看護実践論	11
	老人看護実践論	6
	臨床看護実践論	未開講
	医学と看護の統合	81
	最新実践看護講座Ⅰ	1
	最新実践看護講座Ⅱ	2

○社会福祉学部　社会福祉学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	73
	福祉援助入門	74
	社会福祉入門演習	73
	社会福祉基礎演習	73
	心理学と心理的支援	73
	社会学と社会システム	75
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	73
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	74
	社会福祉史	72
	介護技術	11
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	73
	社会保障論Ⅱ	73
	公的扶助論	82
	障害者福祉論	80
	児童・家庭福祉論	81
	高齢者福祉論Ⅰ	73
	高齢者福祉論Ⅱ	80
	精神保健福祉論Ⅰ	26
	精神保健福祉論Ⅱ	27
	福祉行財政と福祉計画	76
	福祉サービスの組織と経営	77
	権利擁護論	72
	更生保護制度	73
	保健医療サービス	79
	女性福祉論	31
	医療福祉論	68
からだとこころの理解科目	医学概論	80
	精神医学Ⅰ	30
	精神医学Ⅱ	30
	精神保健学Ⅰ	28
	精神保健学Ⅱ	28
	発達と老化の理解Ⅰ	19
	発達と老化の理解Ⅱ	16
	認知症の理解Ⅰ	22
	認知症の理解Ⅱ	18
	障害の理解Ⅰ	21
	障害の理解Ⅱ	19
	こころとからだのしくみⅠ	22
	こころとからだのしくみⅡ	21
相談援助基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	75
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	75
	相談援助の理論と方法Ⅰ	82
	相談援助の理論と方法Ⅱ	82
	相談援助の理論と方法Ⅲ	82
	相談援助の理論と方法Ⅳ	72
	精神保健福祉援助技術総論	27
	精神保健福祉援助技術各論	28
	面接技法	57
	医療ソーシャルワーク論	33
相談援助実践科目	相談援助演習Ⅰ	80
	相談援助演習Ⅱ	79
	相談援助演習Ⅲ	74
	相談援助演習Ⅳ	71
	相談援助実習指導Ⅰ	79
	相談援助実習指導Ⅱ	80
	相談援助実習指導Ⅲ	69
	相談援助実習	69

授業科目		受講者数
相談援助実践科目	事例研究法	8
	実践記録法	10
	チームアプローチ	2
	スーパービジョン	5
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	81
	地域福祉論Ⅱ	80
	地域福祉活動	12
	国際福祉論	16
	コミュニティソーシャルワーク	39
	福祉NPO論	55
	子育て支援論	9
	虐待防止論	62
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	47
	ケアマネジメント演習	33
	ケアプラン策定法	3
	就労支援サービス	67
	精神科リハビリテーション学	26
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	21
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	21
介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	21
	介護の基本Ⅱ	20
	介護の基本Ⅲ	15
	コミュニケーション技術	22
	生活支援技術Ⅰ	21
	生活支援技術Ⅱ	21
	生活支援技術Ⅲ	20
	生活支援技術Ⅳ	18
	生活支援技術Ⅴ	15
	介護過程Ⅰ	21
	介護過程Ⅱ	20
	介護過程Ⅲ	18
	介護過程Ⅳ	15
介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	21
	介護総合演習Ⅱ	20
	介護総合演習Ⅲ	15
	介護総合演習Ⅳ	21
	介護実習Ⅰ	21
	介護実習Ⅱ	20
	介護実習Ⅲ	15
	医療的ケアⅠ	15
	医療的ケアⅡ	21
総合科目	福祉研究法入門	83
	社会調査の基礎	71
	社会福祉専門演習Ⅰ	73
	社会福祉専門演習Ⅱ	74
	社会福祉専門演習Ⅲ	73
	社会福祉専門演習Ⅳ	74

○健康栄養学部　健康栄養学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基礎科目	健康栄養学基礎	43
	健康栄養学応用	47
社会・環境と健康	地域健康論	41
	介護論	42
	食と介護	41
	保健医療福祉論	41
	地域医療論	9
	公衆衛生学	42
	環境衛生学実習	42
	健康情報論実習	43
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	43
	生化学Ⅱ	43
	生化学実験	39
	人体の構造と機能Ⅰ	43
	人体の構造と機能Ⅱ	44
	臨床医科学	5
	疾病論Ⅰ	39
	疾病論Ⅱ	39
	運動生理学	39
	生体科学実験・実習	39
食べ物と健康	食品学	43
	食品学実験Ⅰ	43
	食品学実験Ⅱ	39
	食材学	43
	食品の栄養素と機能	39
	食品衛生学	39
	食品衛生学実験	39
	フードシステム学	7
	調理学	43
	調理学実習Ⅰ	43
	調理学実習Ⅱ	43
	調理学実習Ⅲ	32
	調理科学実験	9
栄養基礎	基礎栄養学	46
	基礎栄養学実験	39
栄養学応用	応用栄養学Ⅰ	39
	応用栄養学Ⅱ	39
	応用栄養学実習	40
	ライフステージ栄養学	39

授業科目		受講者数
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	39
	栄養教育論Ⅱ	42
	栄養教育論Ⅲ	41
	栄養教育論実習Ⅰ	42
	栄養教育論実習Ⅱ	42
	学校栄養指導論Ⅰ	4
	学校栄養指導論Ⅱ	4
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	39
	臨床栄養学Ⅱ	42
	臨床栄養学Ⅲ	41
	臨床実践栄養学	41
	臨床栄養学実習Ⅰ	42
	臨床栄養学実習Ⅱ	41
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	40
	公衆栄養学Ⅱ	41
	地域公衆栄養学実習	41
給食経営管理論	給食経営管理論	39
	給食計画論	39
	給食経営管理実習Ⅰ	41
	給食経営管理実習Ⅱ	41
総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ	41
	管理栄養士総合演習Ⅱ	41
臨地実習	給食経営管理臨地実習	41
	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	41
	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	41
	地域公衆栄養学臨地実習	41
	地域実践栄養学臨地実習	未開講
その他	企業実習	未開講
	健康栄養フィールドワーク	39
課題研究	卒業研究	41

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	37	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	13
	教育基礎理論	34		教育実習Ⅱ	13
	教師論	96		養護実習	9
	教育社会学	65		学校栄養教育実習	9
	発達心理学	52		教職実践演習(中・高)	14
	教育心理学	40		教職実践演習(養護)	9
	特別支援教育概論	80		教職実践演習(栄養)	9
	教育課程論	80		国語科教育法Ⅰ	14
	道徳教育論	70		国語科教育法Ⅱ	13
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	67		国語科教育法Ⅲ	4
				国語科教育法Ⅳ	6
	特別活動論	39		英語科教育法Ⅰ	7
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	64		英語科教育法Ⅱ	5
				英語科教育法Ⅲ	9
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	77		英語科教育法Ⅳ	9

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	3
		教育学特論	0
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	1
		臨床倫理	6
		グローバルヘルス論	5
		ケア論	未開講
		看護マネジメント論	6
	専攻共通科目	看護理論と実践	15
		看護学基盤論	6
		看護研究と実践	16
		看護倫理	15
		看護サービス管理論	9
		看護コンサルテーション論	13
		フィジカルアセスメント特論	11
		病態生理学	12
		臨床薬理学	12
		こころの発達	0
		看護教育論Ⅰ	9
		看護教育論Ⅱ	15
		看護教育学専門演習	0
		看護教育学研究方法Ⅰ	1
		看護教育学研究方法Ⅱ	1
		データ分析方法論Ⅰ	9
		疫学研究方法論	5
		保健医療政策と経済Ⅰ	12
		保健医療政策と経済Ⅱ	16
		看護学の動向と展望	15
		最新専門看護実践講座Ⅰ	9
		最新専門看護実践講座Ⅱ	8
		インディペンデントスタディ	0
領域専門科目	共創看護学領域	看護理論と研究Ⅰ	7
		看護理論と研究Ⅱ	3
		学際的研究方法	4
		データ分析方法論Ⅱ	3
		看護学英語	3
		共創看護学セミナー	3
		バイオメトリクス看護学演習	3
		看護学研究方法ⅠA	1
		看護学研究方法ⅠB	0
		看護学研究方法ⅡA	1
		看護学研究方法ⅡB	0
	がん看護学領域	がん看護論	1
		緩和ケア特論	1
		がん看護方法論Ⅰ	1
		がん看護方法論Ⅱ	2
		がん看護方法論Ⅲ	2
		がん病態生理学	4
		がん診断治療学	未開講
		がん薬理学	3
		がん看護課題研究	2
		がん看護学実践演習Ⅰ	1
		がん看護学実践演習Ⅱ	2
		がん看護学実践演習Ⅲ	2
		がん看護学実践演習Ⅳ	2
		がん看護学実践演習Ⅴ	2
		成人看護学研究方法Ⅰ	0
		成人看護学研究方法Ⅱ	0

授業科目			受講者数
領域専門科目	慢性看護学領域	慢性看護論	1
		慢性看護対象論	1
		慢性看護方法論Ⅰ	1
		慢性看護方法論Ⅱ	1
		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅱ	1
		慢性看護課題研究	1
		慢性看護学実践演習Ⅰ	1
		慢性看護学実践演習Ⅱ	0
		慢性看護学実践演習Ⅲ	1
		慢性看護学実践演習Ⅳ	0
		慢性看護学実践演習Ⅴ	0
		成人看護学研究方法Ⅰ	0
		成人看護学研究方法Ⅱ	0
	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論Ⅰ	1
		クリティカルケア看護論Ⅱ	3
		クリティカルケア看護方法論Ⅰ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅱ	2
		クリティカルケア看護方法論Ⅲ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅳ	2
		クリティカルケア診断治療学Ⅰ	4
		クリティカルケア診断治療学Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護課題研究	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	2
	母性看護学領域	女性健康看護論	0
		女性健康支援論	0
		子育て包括ケアシステム論	0
		女性の健康危機マネジメント論	0
		母性看護フィールド演習Ⅰ	0
		母性看護フィールド演習Ⅱ	0
		母性看護学研究方法Ⅰ	0
		母性看護学研究方法Ⅱ	0
	小児看護学領域	小児看護論	0
		小児看護対象論	0
		小児看護方法論Ⅰ	0
		小児看護方法論Ⅱ	2
		小児診断治療学Ⅰ	未開講
		小児診断治療学Ⅱ	2
		小児看護課題研究	2
		小児看護学実践演習Ⅰ	0
		小児看護学実践演習Ⅱ	2
		小児看護学実践演習Ⅲ	2
		小児看護学実践演習Ⅳ	0
		小児看護学実践演習Ⅴ	2
		小児看護学研究方法Ⅰ	0
		小児看護学研究方法Ⅱ	0

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	1
		老人看護対象論	1
		老人看護方法論	2
		老人ケアシステム論	2
		老人看護展開論Ⅰ	1
		老人看護展開論Ⅱ	1
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講
		老年病診断治療学Ⅱ	3
		老人看護課題研究	2
		老人看護学実践演習Ⅰ	1
		老人看護学実践演習Ⅱ	1
		老人看護学実践演習Ⅲ	2
		老人看護学実践演習Ⅳ	2
		老人看護学実践演習Ⅴ	2
	精神看護学領域	精神看護論	3
		精神看護対象論	3
		精神看護方法論Ⅰ	3
		精神看護方法論Ⅱ	2
		精神看護展開論Ⅰ	0
		精神看護展開論Ⅱ	0
		精神看護展開論Ⅲ	0
		精神看護展開論Ⅳ	1
		精神診断治療学Ⅰ	5
		精神診断治療学Ⅱ	未開講
		精神看護課題研究	2
		精神看護学実践演習Ⅰ	3
		精神看護学実践演習Ⅱ	3
		精神看護学実践演習Ⅲ	2
		精神看護学実践演習Ⅳ	2
		精神看護学実践演習Ⅴ	2
	家族看護学領域	家族看護論	1
		家族看護対象論	2
		家族看護方法論Ⅰ	16
		家族看護方法論Ⅱ	8
		家族看護実践論Ⅰ	1
		家族看護実践論Ⅱ	0
		家族療法	未開講
		家族ケアの開発	1
		家族看護課題研究	1
		家族看護学実践演習Ⅰ	1
		家族看護学実践演習Ⅱ	1
		家族看護学実践演習Ⅲ	1
		家族看護学実践演習Ⅳ	0
		家族看護学実践演習Ⅴ	1
		家族看護学研究方法Ⅰ	0
		家族看護学研究方法Ⅱ	0
	在宅看護学領域	在宅看護論	0
		在宅看護方法論Ⅰ	0
		在宅看護方法論Ⅱ	1
		在宅看護方法論Ⅲ	0
		在宅ケアシステム論	0
		在宅看護展開論Ⅰ	0
		在宅看護展開論Ⅱ	0
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講
		在宅療養診断治療学Ⅱ	0
		在宅看護課題研究	0
		在宅看護学実践演習Ⅰ	0
		在宅看護学実践演習Ⅱ	0
		在宅看護学実践演習Ⅲ	0
		在宅看護学実践演習Ⅳ	0
		在宅看護学実践演習Ⅴ	0

授業科目			受講者数
領域専門科目	地域看護学領域	地域看護論	0
		地域ケアシステム論	0
		地域看護展開論	0
		地域看護課題研究	2
		地域フィールド演習Ⅰ	0
		地域フィールド演習Ⅱ	2
		地域看護学研究方法Ⅰ	0
		地域看護学研究方法Ⅱ	2
	災害・国際看護学領域	災害看護論	4
		グローバル社会看護論	5
		災害・国際看護方法論	1
		感染症看護セミナー	5
		環境衛生看護セミナー	0
		共生社会看護セミナー	4
		人道支援看護セミナー	0
		災害看護管理セミナー	0
		災害看護活動論（準備期）	1
		環境防災学	5
		災害・国際看護学研究方法Ⅰ	4
		災害・国際看護学研究方法Ⅱ	0
	看護管理学領域	看護管理論	0
		システム経営管理論	0
		看護管理展開論	0
		看護管理の動向と展望	0
		看護管理課題研究	0
		看護管理学実践演習Ⅰ	0
		看護管理学実践演習Ⅱ	0
		看護管理学実践演習Ⅲ	0
		看護管理学研究方法Ⅰ	0
		看護管理学研究方法Ⅱ	0
	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		老人看護ケア研究	2
		がん看護ケア研究	0
		小児看護ケア研究	2
		慢性看護ケア研究	0
		クリティカルケア研究	2
		臨床看護管理研究	2
		臨床看護教育研究	5
		母性・助産看護ケア研究	0
		臨床看護学専門演習	2
		臨床看護学研究方法Ⅰ	1
		臨床看護学研究方法Ⅱ	1
	地域保健学領域	地域ケア研究	4
		学校保健研究	1
		家族ケア研究	6
		在宅ケア研究	5
		保健学研究	1
		災害・国際看護ケア研究	1
		地域保健学専門演習	4
		地域保健学研究方法Ⅰ	2
		地域保健学研究方法Ⅱ	2

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	8
	理論看護学Ⅱ	7
	看護学研究方法Ⅰ	8
	看護学研究方法Ⅱ	8
	看護倫理学	8
	イノベーション看護学	8
	国際看護学	7
	医学研究方法論	0
	インディペンデントスタディ	0
	プロフェッショナルライティング	1
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1
	共創看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	0
	がん看護学Ⅱ	0
	成人看護学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	0
	小児看護学Ⅰ	1
	小児看護学Ⅱ	0
	老人看護学Ⅰ	0
	老人看護学Ⅱ	0

授業科目		受講者数
専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	精神看護学Ⅱ	0
	家族看護学Ⅰ	0
	家族看護学Ⅱ	0
	在宅看護学Ⅰ	0
	在宅看護学Ⅱ	0
	地域看護学Ⅰ	0
	地域看護学Ⅱ	0
	学校保健学Ⅰ	0
	学校保健学Ⅱ	0
	災害・国際看護学Ⅰ	1
	災害・国際看護学Ⅱ	0
	看護病態生理学Ⅰ	0
	看護病態生理学Ⅱ	0
	看護経営管理学Ⅰ	1
	看護経営管理学Ⅱ	0
研究支援科目	看護学特別研究Ⅰ	11
	看護学特別研究Ⅱ	5
	看護学特別研究Ⅲ	1

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講
	理論看護学	未開講
	危機管理論	未開講
	環境防災学Ⅰ	未開講
	環境防災学Ⅱ	0
	グローバルヘルス	0
	災害法制度と政策論	未開講
	専門職連携実践論	0
	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	1(0)
	災害医療学	未開講
	災害心理学	未開講
	災害と文化	0
	災害社会福祉学	未開講
	Professional writing	3(2)
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	未開講
	災害看護活動論Ⅰ（急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅱ（亜急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅲ（復旧・復興）	未開講
	災害看護活動論Ⅳ（備え）	未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論	0
	災害看護リーダーシップ・管理論	0
	災害看護倫理	0
	災害看護理論構築	3(1)
	インターンシップⅠ	1(1)
	インターンシップⅡ	7(2)

授業科目		受講者数
インディペンデント学修科目群	災害看護ゼミナールA	0
	災害看護ゼミナールB	0
	災害看護ゼミナールC	0
	災害看護ゼミナールD	0
	災害看護ゼミナールE	1(0)
	インディペンデントスタディⅠ	0
	インディペンデントスタディⅡ	0
	インディペンデントスタディⅢ	0
	インディペンデントスタディⅣ	0
	インディペンデントスタディⅤ	0
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講
	実践課題研究	1(1)
	災害看護研究デベロップメント	0
	博士論文	13(5)

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	8
		教育学特論	3
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	5
		臨床倫理	1
		グローバルヘルス論	2
		ケア論	未開講
		看護マネジメント論	0
	人間生活学研究科科目	研究方法論Ⅰ	6
		研究方法論Ⅱ	7
		研究方法論Ⅲ	4
		データ解析論	5
		環境解析論	0
		地域スポーツ論	7
		健康リハビリテーション論	未開講
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	未開講
		食品製造学特論	9
		食物科学論	未開講
		食物科学実践演習	9
	人間栄養学	栄養学特論	3
		臨床栄養学特論	未開講
		健康動態論	2
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論Ⅰ	1
		栄養・生活特論Ⅱ	1
		栄養・生活統計論	0
		環境生態論	未開講
社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論	未開講
		福祉リハビリテーション論	5
		ソーシャルワーク論	6
		社会保障論	未開講
		福祉行財政論	6
	地域・国際福祉	地域福祉論Ⅰ	未開講
		地域福祉論Ⅱ	3
		国際福祉論Ⅰ	未開講
		国際福祉論Ⅱ	6
	介護・高齢者福祉	介護福祉論Ⅰ	未開講
		介護福祉論Ⅱ	3
		高齢者福祉論	未開講
	障害者福祉	障害者福祉論	6
		精神保健福祉論	未開講
		精神科ソーシャルワーク論	2
	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論Ⅰ	未開講
		児童・家庭福祉論Ⅱ	5
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	4
		地域文化論Ⅱ	未開講
		地域文化論Ⅲ	2
		観光文化論Ⅰ	1
		観光文化論Ⅱ	未開講
		観光文化論Ⅲ	2

授業科目			受講者数
文化学領域科目	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講
		日本文化論Ⅱ	2
		日本語文化論	未開講
		文学Ⅰ	未開講
		文学Ⅱ	1
		文学Ⅲ	1
	英語文化	英語文化論Ⅰ	2
		英語文化論Ⅱ	未開講
		英語文化論Ⅲ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講
		国際日本学	未開講
英語・領域教育コース科目	英語・国際文化研究	英語学特論Ⅰ	未開講
		英語学特論Ⅱ	1
		英語教育学特論Ⅰ	未開講
		英語教育学特論Ⅱ	未開講
		英語圏文学特論Ⅰ	未開講
		英語圏文学特論Ⅱ	未開講
		英語圏文化特論Ⅰ	1
		英語圏文化特論Ⅱ	0
		異文化理解特論	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講
		英語教育実践研究Ⅰ	1
		英語教育実践研究Ⅱ	1
栄養・領域教育コース科目	食物科学	食品生化学特論	未開講
		食品製造学特論	未開講
		食物科学論	未開講
		食物科学実践演習	未開講
	人間栄養学	栄養学特論	未開講
		臨床栄養学特論	未開講
		食生活論Ⅰ	未開講
		食生活論Ⅱ	未開講
		食生活論演習	未開講
		健康動態論	未開講
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論Ⅰ	未開講
		栄養・生活特論Ⅱ	未開講
		栄養・生活統計論	未開講
		環境生態論	未開講
研究指導科目		栄養・生活学課題研究演習	7
		社会福祉学課題研究演習	3
		文化学課題研究演習	2

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目		研究デザイン	未開講
		研究倫理	5
専門科目	栄養・生活学領域科目	地球環境解析学	0
		環境生態学	0
		人間栄養学	未開講
		食品機能学	2
		健康動態学	0
	社会福祉学領域科目	介護福祉学	1
		障害者福祉学	1
		児童・家族福祉学	0
		地域ソーシャルワーク学	0
		国際福祉政策学	1
		福祉リハビリテーション学	0

授業科目			受講者数
専門科目	文化学領域科目	地域文化学Ⅰ	2
		地域文化学Ⅱ	0
		言語文化学Ⅰ	0
		言語文化学Ⅱ	0
研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		栄養・生活学特別研究Ⅱ	1
		栄養・生活学特別研究Ⅲ	1
		社会福祉学特別研究Ⅰ	2
		社会福祉学特別研究Ⅱ	3
		社会福祉学特別研究Ⅲ	1
		文化学特別研究Ⅰ	0
		文化学特別研究Ⅱ	0
		文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

３ 科目等履修生・特別聴講学生・研究生の状況

（1）科目等履修生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
国語科教育法Ⅰ	1		
国語科教育法Ⅱ	1		
国語科教育法Ⅳ	2		
特別支援教育概論	1		
教職実践演習（中・高）	1		
教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	2		

（2）特別聴講学生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
災害看護活動論（準備期）	1		
環境防災学	1		

（3）研究生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数

4　教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

（1）教員免許状取得状況（過去3年間分）

（単位：人）

学部・学科	区　分		平成31/令和元年度	令和2年度	令和3年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	16	20	14
		中一種免（英語）	9	9	9
		高一種免（英語）	9	9	9
		中一種免（国語）	7	11	5
		高一種免（国語）	7	11	5
	教員就職者数		10	13	7
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	14	11	9
		一種免（養護）	14	11	9
	教員就職者数		8	7	5
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	10	10	9
		一種免（栄養）	10	10	9
	教員就職者数		7	2	3
合　計	免許状取得者数（実人数）		40	41	32
	教員就職者数		25	22	15

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

（2）国家試験合格状況

（単位：人）

国家資格	受験日	区　分	受験者数	合格者数	合格率
看護師	令和4年2月13日	新　卒	81	81	100.0%
		既　卒	0	0	
保健師	令和4年2月11日	新　卒	72	71	98.6%
		既　卒	0	0	
助産師	令和4年2月10日	新　卒	8	8	100.0%
		既　卒	0	0	
社会福祉士	令和4年2月6日	新　卒	71	48	67.6%
		既　卒	24	7	29.2%
精神保健福祉士	令和4年2月5日 令和4年2月6日	新　卒	20	18	90.0%
		既　卒	2	2	100.0%
介護福祉士	令和4年1月30日	新　卒	21	21	100.0%
		既　卒	0	0	
管理栄養士	令和4年2月27日	新　卒	41	39	95.1%
		既　卒	1	0	0.0%

（3）専門看護師・認定看護管理者合格状況

（単位：人）

専門看護分野名	合格者数
がん看護	5
慢性疾患看護	1
急性・重症患者看護	4
小児看護	1
家族支援	1
老人看護	1

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1)学位等授与状況

○博 士

(単位:人)

研 究 科 名	博 士	
	令和3年度	累 計
看護学研究科(博士後期課程)	1	37
看護学研究科(博士課程)	3	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	1	11
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合 計	5	105

○修 士

(単位:人)

研 究 科 名	修 士	
	令和3年度	累 計
看護学研究科(博士前期課程)	18	308
人間生活学研究科(博士前期課程)	10	188
合 計	28	496

【学位授与者一覧】

○博 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	川本 美香	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachment
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	伏見 木綿子	福島第一原子力発電所事故による放射線災害がもたらした住環境およびその後被災者が変化させた住環境と健康に対する考え方の基盤の関連
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	YUDI ARIESTA CHANDRA	Development of a Disaster Mental Health Risk Reduction Nursing Model for Caregiving Family Member of the Elderly
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	SUSHILA PAUDEL	Barriers and Facilitators to Healthcare Access for Nepalese Migrants during the COVID-19 Crisis in Japan
令和 4年 3月22日	博士(生活科学)	隅田 有公子	経腸栄養剤の半固形化に関する検討

○修 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	野中 美希	身体障害者のスティグマの体験
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	林 あゆ	病棟看護師のNPPV導入支援－慢性心不全患者の継続使用を目指して－
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	今井 ユミ	急性期病棟の看護師が行う終末期がん患者の意向確認
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	氏原 愛絵	住民の地域づくりコミットメント

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　　文　　名
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	角西　三菜	若年期にある養護教諭のストレスマネジメント
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	上村　明咲	治療が奏功しない重症患者に対するICU看護師のcomfortケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	木村　義孝	心臓手術を受ける高齢者のインタレスト
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	清重　真衣子	苦痛を伴う処置を受ける乳児期の子どもに対する熟練看護師によるケアリング
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	小菅　樹里	地域で認知症の人が安心して過ごせる場づくりにおける保健師の役割
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	隅　華奈	術後の壮年期がん患者に対してがん相談支援センターの看護師が行う就労支援
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	髙橋　啓太	小児期に化学療法を受けた経験をもつ青年のストレングス
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	竹本　智子	活動拡大に向かう急性心不全患者へのセルフモニタリング支援
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	佃　勇輝	医療的ケア児を育てる親の南海トラフ地震に向けた準備性
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	中村　夏子	皮膚生理学的指標と主観的指標による高齢者浮腫のアセスメント
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	松浦　美樹	看護教員の経験学習
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	眞鍋　正子	ひきこもりを呈している精神疾患を持つ人への活動性を高めるための看護ケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	三笠　優樹	再入院を繰り返しているアルコール依存症患者の回復を促す看護ケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	明神　拓也	脳卒中による後遺症を抱えた高齢患者の首尾一貫感覚(Sense of Coherence:SOC)
令和 4年 3月22日	修士(社会福祉学)	小原　真己	子育て支援における市区町村社会福祉協議会の参画方法に関する研究 ―子育て支援プラットフォームの取り組みから―
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	有岡　佐和	プラスチック廃棄物が水産食品に及ぼす影響
令和 4年 3月22日	修士(学術)	王　芸	古都における景観保全と町並みの保存活用に関する比較研究 ―京都と北京―
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	緒方　裕一郎	医療福祉領域に従事する職員の腰痛症状、及び関係する腰痛発症要因の解析
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	小松　勝人	自閉スペクトラム症児の感覚統合と知能の関連性について

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　　文　　名
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	鮫島　千遥	生鮮食品における栄養機能食品の栄養成分表示とその方法の具体化
令和 4年 3月22日	修士(学術)	森田　佐枝	A Study on Teaching English Vocabulary at Junior High School : Theoretical and Practical Considerations for Systematized Instructions in Classroom Settings
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	山田　晋行	マウス肝癌細胞培養時の培地中の各種アミノ酸が、メチル基転移酵素群の遺伝子発現、及び生成される含硫アミノ酸量に及ぼす影響
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	山根　悠太	ポリフェノール複合物のマウス筋芽細胞の分化に対する影響
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	渡邉　千尋	運動後の疲労回復のための代謝調節と植物性成分による疲労回復効果

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	部　局　内　訳
令和4年3月22日	地域共生推進士	8	文化学部3人、看護学部2人、社会福祉学部3人

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
-	日本語教員	3

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
-	履修証明書	―

※令和3年度は開講せず

（5）大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より一貫して高い目標を持って学業に真摯に取り組み、看護実践、看護研究で特に優秀な成績を修めた。
看護学研究科	看護学専攻 博士後期課程	5	1	研究に真摯に取り組み、看護学研究の深化・発展に寄与した。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田 莉聖 堤 美咲 中川 往香	大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる者。
		3	大嶋 康晃 白石 菜々瀬 川村 舞	
		2	永易 真愛美 浜本 鈴加 松田 萌日	
看護学部	看護学科	4	朝日 琳果 清水 菜央	
		3	髙坂 菜未 春名 美愛	
		2	多田 帆乃夏 西本 愛美	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	畑山 菜の子 安岡 真帆	
		3	林 未夢 別役 花子	
		2	織田 彩嘉 川上 夏歩	

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
健康栄養学部	健康栄養学科	4	矢野 愛実	大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる者。
		3	中村 朱里	
		2	山本 響香	

【学長賞】

団体名（人数）	功績	学部	氏名
薬物乱用防止サークル「ダメ。ゼッタイ。」（1名）	高知桜ライオンズクラブ、高知県警と共に小中学校を訪問し、子供たちを対象に薬物乱用の危険性を啓発する教室で講師として活動し、子どもたちの健全育成に貢献した。公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターとライオンズクラブ国際協会336-A地区の共催で年1回開催されている「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」でも講師を務めた。3回生からは代表を務め、協力団体との連絡調整やサークルのマネジメントも1人で担った。	文化学部	中矢 悠大
オーテピアンズ（10名）	コロナ禍において疲弊した人々の心に癒しを提供することを目的とし、子供だけでなく大人も対象とした読み聞かせを収録した動画をオーテピア図書館の監修のもと作成し、大手動画共有サイトやSnsを通じて配信する活動を精力的に行った。	文化学部	朝倉 緋奈子 石黒 天芽 大西 寧々 荻田 桃紅子 国見 春香 小林 美月 嶋 美涼 藤田 琉花 山川 真輝
県大生のセキララジオ！（3名）	1回生の時から3年間、企画・司会進行の役割を担い、ラジオを通じて高知県立大学の魅力を高知県民に発信し、本学の名誉を大きく高める活動を行った。	文化学部	石山 莉那 大西 寧々 政木 美里
空き家研究グループ※令和3年12月受賞（4名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2021」において、「大賞」を受賞した。	文化学部	笹波 夏帆 中内 優加里 中島 優綺 中城 日那

団体名（人数）	功績	学部	氏名
いけいけサロン活動 （5名）	立志社中事業（1回生から3回生の時）及び学生サークル活動（4回生の時）において、看護学を学ぶ学生と地域住民の協働による地域交流の促進や地域づくりを目的とした活動を継続的に行い、町内会活動に貢献してきた。大学で行われる合同災害訓練では「災害時の生活について考える」をテーマに、避難所での生活体験ができる企画・運営を実施した。また、これまでの活動で明らかになっていた「池地域に起こる災害とペットの問題」を取り上げ、ペットと暮らす大切さや地域猫がペットとして暮らす様子を知り、災害時にペットとともに避難できる対応の必要性を見出し、町内会に結果を還元し町内会活動に貢献してきた。	看護学部	池原 由記 冨岡 百恵 西村 紗貴 橋村 汐音 福川 美季
健援隊 （7名）	メンバーの組織への貢献度の低下や目的が曖昧になるなどの課題が生じるようになっていたが、「救急時の対応の知識の普及」、「コミュニティーへの継続した知識の普及」、「子どもに対する知識の普及」の3つの目的に沿って組織を分割し、運営を開始し、「救急時の対応の知識の普及」は、日曜市を中心に活動を継続し、「コミュニティーへの継続した知識の普及」、「子どもに対する知識の普及」に関してはそれぞれ、香美市、南国市から助成金を受け、事業の充実を図った。新型コロナウイルス感染拡大後は、「コミュニティーへの継続した知識の普及」を中心に事業を選択集中させ、「手紙」を用いて、集合・対面での開催が困難な状況にも関わらず活動を継続できるよう、後輩を助言、指導し、この功績により、現地に赴かなくてもできる支援を確立し、現在に引き継がれている。	看護学部	大石 茄奈 大山 悠人 梶山 莉緒 上岡 麻尋 後藤 航平 高木 晴生 森本 真以
室戸ボランティアリーダー （4名）	国立室戸青少年自然の家や高知県立野市青少年センターが企画した教育的活動にボランティアとして参加するだけでなく、施設運営者の指導の下、学生が自主企画したイベントやボランティアリーダーの育成研修の企画・実施などに1，2回生時から現在に至るまで、継続的に参画した。またコロナ禍において、イベントの中止やメンバー間の直接的な交流が制限される中でも、Snsの充実を図って積極的に情報発信を行い、Web会議システムを活用して後輩の顔を見ながら話し合う機会を持ち、児童の成長発達に関する専門的な知識を活かして、発達段階に合わせたコミュニケーションの取り方や活動内容の組み立て方などを伝え、サークルとしての活動の維持・発展に尽力した。	看護学部	磯部 優花 岩打 紗歩 古藤 愛梨 橋村 汐音

団体名（人数）	功績	学部	氏名
廃校シェアハウス～須崎にきいやプロジェクト～ ※令和2年12月受賞 （5名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2020」において、「敢闘賞」を受賞した。	社会福祉学部	大崎 明日香 塩崎 勇斗 菅野 開斗 須藤 真梨 丸川 日花里
安芸家プロジェクト ※令和3年12月受賞 （4名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2021」において、「審査員特別賞」を受賞した。	社会福祉学部	井尻 璃子 岡崎 栞奈 小松 可歩 中川 紗也
Pシスターズ （9名）	持続可能な地域づくりに向けて、住民の思いを聞き、その地域ならではの「良さ」を生かして発展させながら、地域の生活「課題」に対してもその解決に向けて住民自身が主体的に取り組むことによって、「住み続けたい」地域づくりに貢献してきた。	社会福祉学部	生原 杏 石本 菜花 井上 結菜 高橋 和子 武村 明日香 西尾 理彩 平野 優里 吉村 歩華 渡部 千尋
イケあい地域災害学生ボランティアセンター （11名）	コロナウイルスの影響を受けている状況下でも、福祉・医療現場に手作りの感染防護用品を届ける活動や、子ども達がゲーム形式で防災を学べるカードゲーム、輪投げボードの開発、医療センターに向けた応援メッセージの発信等、自分達にできる防災活動を探求し、地域住民の方々との信頼関係を繋げていった。	文化学部	國澤 匠 中矢 悠大
		看護学部	井上 暖乃 入江 真衣 江本 美月 遠藤 春音 小松 未羽 山縣 穂佳
		社会福祉学部	大崎 明日香 長野 青葉 山本 真奈可
高知県学生献血クロス倶楽部 （2名）	日本赤十字社高知県支部と連携し、1回生から4回生まで継続して活動を行い、献血の普及、啓発活動に貢献した。	健康栄養学部	井土 遥 戸田 夕芽
COME☆RISH （12名）	COME☆RISH6期生として、中土佐町での農作業体験や定食提供、地域イベントへの参加等を行い、地域との交流を深め、子どもから大人を対象に高知市内の量販店店舗で大野見エコ米を含む複数のお米の食べ比べやお米に関する知識の普及を行った。地域での活動に積極的に取組み、食育活動や定食提供等を通じて、大野見エコ米や中土佐町の食材の素晴らしさを広く発信してきた。	健康栄養学部	池田 夏海 大崎 万葉 掛水 花音 加島 陽菜 片山 真優 酒井 優希 指熊 怜 島村 千香子 中尾 理紗 西村 麻矢 安井 美楓 吉永 さくら

団体名（人数）	功績	学部	氏名
小児糖尿病サマーキャンプ （4名）	公益財団法人日本糖尿病協会が主催する「小児糖尿病サマーキャンプ」に参加し、医療スタッフの指導を受け、子供たちと一緒に企画を楽しみ、血糖コントロールを一緒に考えたりする等、参加者(1型糖尿病の児童・生徒)のサポートを行った。また、サマーキャンプに参加する前から1型糖尿病に関する勉強会を重ね、専門知識の自己研鑽に努めた。	健康栄養学部	矢野 愛実 稲嶺 果音 高岡 萌衣 松崎 萌々子
☆こどもみらい塾☆ （6名）	こどもみらい塾のメンバーとして、健康栄養学部の学生は、主に献立作成と調理、片付けと活動資金の管理、社会福祉学部の学生は、主に活動資金の申請、小学校へのチラシの配布や子どもとの交流を行う等、それぞれの学部での学びを生かしながら子ども食堂の運営を行い、地域の子どもたちの居場所づくりを行った。	社会福祉学部	西本 真悟 松村 宏人 吉村 歩華
		健康栄養学部	岡 ゆり 千頭 夢 山城 舞依

（6）サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
弘光科技大學	廖盈慈 黃怡如 余泳茵 鐘玉如 廖家羚 張靖荑 李欣霈 勞建國 陳履軒	2021年10月21日 オンライン交流会～多文化共生について～	高知県立大学 （国際交流センター）
慶尚国立大學校	金世珉 吳尙炫 金旼映 張星吉 黃現泰 盧珍勳 金東壎 金建瑩 崔汀勛 尹楨希	2021年11月22日 オンライン交流会～多文化共生について～	高知県立大学 （国際交流センター）

6 SD・FD活動実施状況

（1）全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
S D	「ポスト・コロナ時代の大学授業・大学教員・大学生−大学教育はいかに変容していくのか」	大阪大学 全学教育推進機構 佐藤 浩章 准教授	令和3年11月11日	74	高知県立大学	
F D	第22回学際的交流サロン 「高知県立大学の域学共生」	地域教育研究センター長 清原 泰治 教授	令和3年5月31日	71	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第8回越境シリーズ講座 責任ある研究者として －適正な研究活動のための研究倫理の基本	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター 臨床研究支援部 倫理相談・教育研修室室長 有江 文栄 先生	令和3年6月15日	58	高知県立大学研究倫理委員会	学術研究戦略委員会（越境シリーズ講座）・FD委員会
	第23回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会」 ①災害時意思決定支援モバイル・ツール開発のための基礎調査 －被災地における看護有資格者の医療知識／技術情報について－ ②大学－臨床連携システムによる感染症に対する地域包括的な対応能力の向上	①看護学部 木下 真里 教授 ②看護学部 大川 宣容 教授	令和3年7月19日	63	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第24回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会Ⅱ」 ①高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発 ②永国寺キャンパスを拠点とした地域文化資源の保存・整備と利活用に関する実践的研究 ③炎症性腸疾患の新規治療法確立を目指した基礎的研究	①看護学部 瀧 めぐみ 助教 ②文化学部 飯高 伸五 准教授 ③健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和3年9月6日	40	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第9回越境シリーズ講座 「Visualization and information utilization of disaster reduction towards SFDRR and SDGs −How can we secure the inclusiveness with used information in Society 5.0?−（仙台防災枠組み及びSDGsを鑑みた防災の可視化と情報利活用 −Society 5.0の中で情報を利活用し、地域の安心を包摂的に守れるか−）」	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 Rajib Shaw 教授	令和3年11月10日	33	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会 看護学研究科 人間生活学研究科
	第25回学際的交流サロン 「地方移住政策の地域における影響」	文化学部 宇都宮 千穂 准教授	令和3年11月17日	50	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	令和3年度第1回FD研修会 遠隔授業の実践例紹介	文化学部 梶原 太一 准教授 看護学部 時長 美希 教授 看護学部 川本 美香 助教 看護学部 髙橋 真紀子 助教 社会福祉学部 行貞 伸二 講師 健康栄養学部 小林 淳 教授 地域教育研究センター 石山 貴章 教授	令和3年12月21日	72	高知県立大学FD委員会	
	第26回学際的交流サロン 「世界を切り分ける言葉の根源的な働きからみるとアルツハイマー病も相当違ってみえる」	社会福祉学部 横井 輝夫 教授	令和4年1月19日	47	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第27回学際的交流サロン 「子どもを産み育てる親を支える看護 ～乳児期の子どもを育てる親のMasteryに関する研究～」	看護学部 嶋岡 暢希 准教授	令和4年2月16日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	令和3年度第2回FD研修会 パフォーマンス課題による評価の考え方と進め方	京都大学 教育学研究科 西岡 加名恵 教授	令和4年3月8日	72	高知県立大学FD委員会	

（2）部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	障害を持った学生への対応 （受講方法：オンライン）	文化学部　鳥飼 真人 准教授 竹島 健児 学務支援室長 文化学部　大井 方子 障害監督者	令和3年5月24日	23	学務支援室・学部障がい学生支援に関する監督者・学部FD委員会	
	遠隔授業：他教員から学ぶ （受講方法：オンライン）	文化学部　井上 次夫 教授	令和3年6月28日	22	学部FD委員会	
	基礎演習に関する情報の共有と意見交換 （受講方法：オンライン）	「基礎演習」担当教員9名	令和3年7月26日	18	学部FD委員会	
	卒業研究関係−ゼミ所属、発表会、評価法−	井上 次夫 学部教務委員長	令和3年12月13日	23	学部教務委員会	学部FD委員会
	育児・介護休業法	根岸 忠 学部人権委員長	令和4年2月7日	19	学部人権委員会	学部FD委員会
看護学部	第1回　ルーブリックに関するFD	なし	令和3年4月28日	53	学部FD委員会	
	第2回　ルーブリックに関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年5月10日	45	学部FD委員会	
	大学におけるハラスメント （受講方法：オンライン）	看護学部　内川 洋子 准教授	令和3年5月12日	45	学部人権委員会	
	第3回　看護学教育におけるカリキュラムと評価に関するFD （受講方法：オンライン）	日本赤十字看護大学 看護学部長 佐々木 幾美 教授	令和3年5月14日	44	学部FD委員会	
	第4回　ルーブリック作成の進め方に関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年5月26日	50	学部FD委員会	
	第1回　新任の先生を対象としたFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年6月2日	9	学部FD委員会	
	令和3年度高知看護教育研究会第1回学習会 コロナ禍におけるシュミレーション教育 （受講方法：オンライン）	東京医科大学　阿部 幸恵 教授	令和3年6月19日	20	学部FD委員会	
	第2回　新任の先生を対象としたFD	ファシリテーター 看護学部　藤代 知美 准教授 看護学部　髙谷 恭子 准教授 着任後2年目の教員 アドバイザー 看護学部　池添 志乃 教授	令和3年7月28日	10	学部FD委員会	
	第5回　ルーブリックに関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年9月8日	32	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「近年の大学改革の進展をふまえた大学管理運営の新たな発想」 （受講方法：オンライン）	桜美林大学大学院 山本 真一 先生	令和3年9月29日	21	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「リスクマネジメント−大学教員のためのキャンパスハラスメント−」	立命館大学・立命館附属高校 ハラスメント防止委員会委員長代理 湯川 笑子 特命教授	令和3年10月6日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「IR入門」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　鳥居 朋子 先生	令和3年10月20日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「IR入門」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　安岡 高志 先生	令和3年10月27日	21	学部FD委員会	
	第6回　臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導	瓜生 浩子 学部教務委員長 大川 宣容 学部臨床実習委員長	令和3年11月8日	9	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教職協働による大学運営」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　大島 英穂 先生	令和3年11月24日	12	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動（part1.2）」 （受講方法：オンライン）	大阪大学　佐藤 浩章 先生	令和3年12月1日	18	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動（part3）」 （受講方法：オンライン）	大阪大学　佐藤 浩章 先生	令和3年12月8日	18	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
看護学部	ディープアクティブラーニング～深い学びを促進する （受講方法：オンライン）	京都大学　松下 佳代 教授	令和3年12月18日	22	高知看護教育研究会	
	実践的FDプログラム「大学経営革新に活かすプロジェクト・マネジメント」	（社）日本能率協会 牧野 光昭 先生	令和3年12月22日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「現代の高等教育」 （受講方法：オンライン）	筑波大学　金子 元久 先生	令和4年1月5日	20	学部FD委員会	
	早く気づけるストレスケア （受講方法：オンライン）	成蹊大学　原 昌登 氏 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長　山本 晴義 氏	令和4年1月5日～3月16日	38	学部人権委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育研究史」 （受講方法：オンライン）	桜美林大学　舘 昭 先生	令和4年1月26日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学教育改革とFD」 （受講方法：オンライン）	京都産業大学　川島 啓二 先生	令和4年2月2日	25	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学評価論」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　教育開発推進機構 鳥居 朋子 先生	令和4年2月9日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育政策」 （受講方法：オンライン）	明治大学　高野 和子 先生	令和4年3月2日	19	学部FD委員会	
社会福祉学部	学外実習における新型コロナ感染対策 （受講方法：オンライン）	社会福祉学部　三好 弥生 准教授	令和3年5月24日	22	学部FD委員会	
	研究費獲得に向けた実践の紹介 （受講方法：オンライン）	社会福祉学部　辻 真美 講師	令和3年6月28日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介」 （受講方法：オンライン）	滋賀大学教育学部理科教室講座 加納 圭 准教授	令和3年11月22日	22	学部FD委員会	
	無関心が生む不正義と不誠実を乗り越えるソーシャルワーク教育～鋭敏かつ感性豊かな「想豫」と「創造」の力をいかに育むか～ （受講方法：オンライン）	第50回 全国社会福祉教育セミナー2021　奥田 知志 氏（特定非営利活動法人抱撲）、道念 由紀 氏（厚生労働省 社会・援護局）等	令和3年11月27日	2	日本ソーシャルワーク教育学連盟	
	研究と社会正義 （受講方法：オンライン）	文化学部　吉川 孝 准教授 NPO法人はまちどり 永野 いつ香 氏	令和4年1月31日	26	学部FD委員会	人間生活学研究科FD委員会
健康栄養学部	破骨細胞様細胞を標的とした、炎症性腸疾患の新規治療法の開発を目指した基礎的研究	健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和3年11月22日	17	学部FD委員会	
	合同災害訓練の振り返り	健康栄養学部 廣内 智子 講師 健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和3年12月6日	20	学部FD委員会	
	遠隔授業の実践例紹介 （受講方法：オンライン）	健康栄養学部 小林 淳 教授	令和4年1月31日	13	学部FD委員会	
	新科目「健康栄養フィールドワーク」の活動報告	健康栄養学部 廣内 智子 講師 健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和4年2月21日	17	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム （受講方法：オンライン）	立命館大学　鳥居 朋子 先生	令和4年3月7日	8	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理」 （受講方法：オンライン）	東京大学　渡邊 卓也 先生	令和4年3月14日	7	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
看護学研究科	統計勉強会No.1 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年5月10日	7	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.2 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年6月14日	6	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.3 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年7月5日	5	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.4 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年9月6日	6	研究科FD委員会	
	国際学会での研究発表 （受講方法：オンライン）	看護学部　池田 光徳 教授	令和3年9月13日	14	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.5 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年10月4日	5	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.6 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年11月1日	4	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.7 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年12月6日	5	研究科FD委員会	
地域教育研究センター	情報セキュリティ研修 「大学で発生した事例」	地域教育研究センター 一色 健司 教授	令和4年2月22日	6	センターFD委員会	

（3）全学人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
全学	法律の観点から学ぶ職場におけるハラスメント防止 （受講方法：オンライン研修）	文化学部　根岸 忠 准教授	令和3年12月3日	82	高知県立大学人権委員会	

（4）部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	育児・介護休業法	根岸 忠 学部人権委員長	令和4年2月7日	19	学部人権委員会	学部FD委員会
看護学研究科・看護学部	大学におけるハラスメント （受講方法：オンライン）	看護学部　内川　洋子 准教授	令和3年5月12日	45	学部人権委員会	
	早く気づけるストレスケア （受講方法：オンライン）	成蹊大学　原 昌登 氏 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長　山本 晴義 氏	令和4年1月5日～3月16日	38	学部人権委員会	
	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月5日～3月4日	34	学部人権委員会	
社会福祉学部	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月20日～2月28日	15	学部人権委員会	
健康栄養学部	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月12日～1月31日	15	学部人権委員会	
地域教育研究センター	私たち一人ひとりができること―当事者意識を持って考えるコロナ差別―		令和4年2月2日	4	地域教育研究センター人権委員会	
事務局	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和3年11月9日～令和4年1月31日	84	事務局人権委員会	

（5）学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
看護学部	第35回　愛媛大学授業デザインワークショップ （受講方法：オンライン）	令和3年7月3日～7月4日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第2回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年7月30日	1	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2021 （受講方法：オンライン）	令和3年8月25日～8月27日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	オンラインでグループワークを！ ―オンラインMiroを使ったワークを体験する― （受講方法：オンライン）	令和3年9月8日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第3回愛媛大学データサイエンス教育セミナー （受講方法：オンライン）	令和4年1月19日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
健康栄養学部	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 （受講方法：オンライン）	令和3年12月10日～令和4年1月31日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
事務局	初任者研修①	令和3年4月1日	3	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和3年4月12日	3	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和3年4月16日	3	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修（社会人経験者採用）	令和3年4月22日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者採用） オンライン研修① （受講方法：オンライン）	令和3年4月21日～5月21日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎①） （受講方法：オンライン）	令和3年4月21日～5月21日	2	高知県
	公立大学に関する基礎研修	令和3年5月10日	6	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（新任職員） （受講方法：オンライン）	令和3年5月12日～5月14日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	新規採用職員研修（基礎②）	令和3年5月17日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎②） （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～6月17日	2	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者採用） オンライン研修② （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～6月17日	1	高知県
	ハラスメント相談員セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～8月16日	1	フォーブレーン
	新規採用職員研修（基礎②）	令和3年6月3日	1	高知県
	Excel研修 （受講方法：オンライン）	令和3年6月14日～7月30日	35	富士通 （FUJITSUファミリ会四国支部）
	公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年6月24日	8	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ） （受講方法：オンライン）	令和3年6月24日～6月25日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
事務局	大学SDフォーラム （受講方法：オンライン）	令和3年7月～12月	53	学校経営支援センター
	令和3年度著作権セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年7月7日	11	文化庁 高知県
	次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）開放講義 （受講方法：オンライン）	令和3年7月15日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	公立大学リスク・マネジメントセミナー（第2回） （受講方法：オンライン）	令和3年7月16日	7	一般社団法人公立大学協会
	第2回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年7月30日	2	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2021 （受講方法：オンライン）	令和3年8月25日～8月27日	4	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	令和3年度高知大学新任教員FD研修 （受講方法：オンライン）	令和3年9月8日	1	高知大学
	2021年度FD・SD夏期スキルアップ講座 （受講方法：オンライン）	令和3年9月9日	2	愛媛大学
	教務事務セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月10日	6	一般社団法人公立大学協会
	9月FDスキルアップ講座 （受講方法：オンライン）	令和3年9月16日	6	香川大学
	公立大学法人会計入門セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月27日	7	一般社団法人公立大学協会
	令和3年度公立大学職員セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月30日	2	一般社団法人公立大学協会
	公立大学法人会計初級セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年10月5日	6	一般社団法人公立大学協会
	公立大学法人会計中級セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年10月7日、10月11日	5	一般社団法人公立大学協会
	次世代リーダー養成ゼミナール（第3回）開放講義 （受講方法：オンライン）	令和3年10月20日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第3回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年11月30日	1	一般社団法人公立大学協会
	第4回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年12月17日	4	一般社団法人公立大学協会
	公立大学リスク・マネジメントセミナー（第3回） （受講方法：オンライン）	令和4年3月22日	3	一般社団法人公立大学協会